

研修報告書

所属会派	おかや未来研究室	氏 名	渡辺 太郎
研修の名称	令和6年度おかや未来研究室行政視察		
日 程	令和6年7月13日(金)13時30分～15時0分		
研修内容	社会福祉法人 日本聴導犬協会の取り組み		

【概要】

○厚生労働大臣指定法人 社会福祉法人 日本聴導犬協会は、貸与するすべての聴導犬・介助犬を無料で貸与。無料でアフターケアを行っている。1996年10月に、長野県伊那保健所の推進を受け、保護された犬から適性をみて選んだ候補犬を聴導犬として育成。2001年からは、聴覚と肢体障がいのある重複障がいのある方からのご依頼で、多目的補助犬（介助犬と聴導犬）の働きをする多目的補助犬を育成し、ユーザーへのリーチアウトに努めている。

【内容】

聴導犬、及び介助犬の育成を通して、障がいのある方との「共感、協働、共生」により「障がい者の、障がい者による、障がい者のための補助犬育成」を目指している。

（１） 障がいのある方の社会参加を促進する

「訓練側の理想ではなく、障がい者のニーズにそった補助犬育成」をめざし、人と動物が共に暮らし、障がいのある方の自律と社会参加を促進する支援を使命としている。

（２） 動物福祉が活動の両輪

補助犬の候補犬を、主に『捨てられたり、飼い主の見つからない保護犬』から選ぶ、動物福祉の側面も持つ。

（３） 障がいのある方の職域の拡大

ユーザーの日本聴導犬協会への積極的雇用により、障がいのある方の補助犬訓練士、補助犬カウンセラーなど使い手の声が生かせる補助犬育成事業を実践していきたいとしている。聴導犬・介助犬ユーザーの雇用と能力の活用を常に念頭に置き、これまでに「日本聴導犬協会役員」として運営への意見の反映および「協会常勤スタッフ」としての雇用。業務委託として「PR活動」「サイト作成補助」「協会犬用コートや衣類作成」などをお願いしている。

【感想】

バリアフリーの聴導犬・介助犬訓練センターは2008年9月に竣工した機能的な建物でした。実際に、介助犬よしくん、聴導犬ひさちゃん、せいじくんに、順番待ちの呼び鈴を知らせる、目覚まし時計が鳴った時に知らせる、落としてしまったスマホを拾う等のデモンストレーションを行って貰いました。

高齢社会の進展とともに、誰もが障がいを持つ可能性があり、障害のある方の生活支援と動物福祉の活動は、ますます重要になる取り組みと感じた。学校教育の現場においても、多目的補助犬等の学習は有意義ではないかと思いました。